

北海道の労働と福祉を考える会 会報

ともに生きる

2013年7月17日発行（第27号）



会費納付と寄付のおねがい



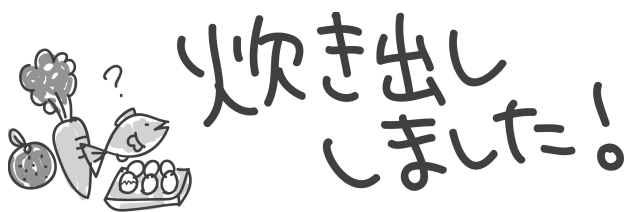
会員の皆様、「北海道の労働と福祉を考える会」への日頃の活動へのご協力、ありがとうございます。本会は、規約第2条にありますとおり、主にホームレスの人々を中心として、仕事と暮らしに困難を抱える人々の労働と福祉に関する調査・研究を行うとともに、必要な支援を行っています。具体的には、第4週を除いた毎週土曜日に行う夜回り声掛け活動、生活保護受給申請や通院の同伴、年4～6回開催する炊き出し・相談会、また年末年始という野宿者にとっていちばん厳しい季節には、エルプラザで手作りの食事会を過去2年にわたり開催しました。他にも、当会設立時より、建設労働者の実態調査研究が発足の契機となりました沿革から、毎年札幌市内の野宿者の実態調査・人数調査をして、そのデータを蓄積してきました。

以上のうち、炊き出し・相談会に関しては、毎年1年のうち4回は、札幌市保健福祉部保護指導課と共催で開催し、市内の他の野宿者支援団体からは、炊き出しで提供する食事を調達していただいていたいました。しかし昨年度、この支援団体がこの事業から撤退されたため、当会が食事費も負担しなければならない事態となりました。この一事のみが原因ではありませんが、今年度は財政状態が心細くなり、活動を縮小せざるを得ない状況になりつつあります。もちろん私たちは、今の労福会の実力に見合った活動内容を探しながら、お金の掛らない活動を、後ろ向きではなくプラス思考で考えております。

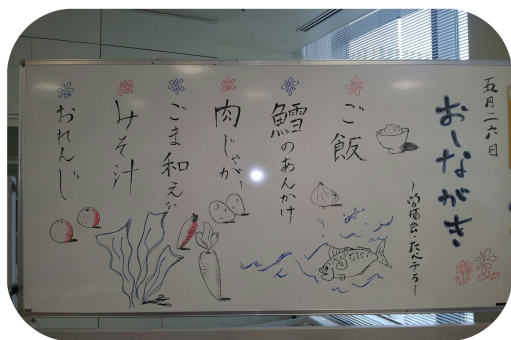
また、現在私たちは、エルプラザ2階の事務ブースに拠点を置いているところ、最長3年まで留まることができますが、来年度一杯で他の活動拠点を探す必要があります。今は毎月1万円の賃貸料金ですが、安価な施設を借りるのは容易ではないでしょう。



私たちの会計収入における会費の割合は4分の1以下ではありますが、それだからと言って会費収入が無くなると、さらに厳しい状況になることが予想されます。会費収入の総額は毎年15～20万円です。エルプラザの賃貸料のように、固定費は必ずかかってきますので、会費は、私たちの団体がホームレスとならないための、最低限の保証と考えています。会費以外の寄付、会員外の方でも、金額はわずかでもかまいませんので、何かの機会に皆様に呼びかけをお願いいたします。（会計担当・楠 高志）



5月26日にエルプラザにて炊き出しを行いました。今回は、「炊き出しって何のためにやるんだっけ？」からスタートしました。結局、二か月に一度くらいの食事を取ったところで当然生きていくことはできないのだから（日々の食事は他の支援団体が担っていますよね）、労福の炊き出しはただ食べてもらうことが目的ではないはず。楽しい時間を一緒に過ごしながらか、じっくりおしゃべりをして、明日の活力、引いては居宅生活への期待が抱けるような、そういう一日を作りたいね、



ということになりました。というわけで、今回は今までとはちょっと違った炊き出しになりました。まず、食事に関して、いつもはお弁当屋さんに発注していましたが、今回は天使大学栄養学科の料理サークル“たベテる”さんにご協力頂いて、無添加で栄養満点、品数も多く家庭的な食事の提供に漕ぎつけることができました。それから食事が済んだ後は、北大落語研究会さんによる口演です。労福スタッフも天使大のみなさんもそれぞれテーブルにつき、和気あいあいとした雰囲気の中、無事終わることが出来ました。タイムスケジュールの詰めが甘かったため空き時間が多く間延びしてしまったことや、ご飯の量が少なかったことなど反省点がありますが、当事者のみなさんから好評の声が多く聞かれ、初めての試みとしてはまずまずといったところではないでしょうか。今後もたベテるさんや学生サークル等の協力を仰ぎながら（実はより多くの学生に労福の活動を知ってもらおうという裏の意図もあるのですが…）路上に出て間もない方が気軽に相談できるブース等の設置も視野にいて、「美味しかった」「楽しかった」という一瞬の歓びが次のステップに向かうような場づくりに努めていきます。こんな言い方はなんだか厚かましいですが、誰にでも！もっと楽しく！生きる！権利が！ある！ということを思い出してくれたらなあと、個人的には日々強く思います。

（事務局長・下郷沙季）



申し遅れましたが、
今年度事務局長の下郷沙季です。
北大文学部4年です。
一年間、よろしくおねがいします。
〽️〽️

